

# 桜ヶ丘総合センターだより



2023 春号  
SPRING

住所：大淀町下湊1223 (☎) 0747-52-5402

## 4月関連の「今日は何の日」

### マザーアースデー

第7回

(International Mother Earth Day)

4月22日『国際マザーアースデー』  
(国際母なる地球デー・地球の日)

- 2009年(平成21年)、国連総会で4月22日を「国際マザーアースデー(国際母なる地球デー)」に制定し、翌2010年(平成22年)から実施しています。

1969年(昭和44年)1月28日に、アメリカ・カリフォルニア州サンタバーバラで海底油井(ゆせい)の破裂事故が発生し、15,000キロリットル以上の原油が流出しました。この事故をきっかけに、当時のアメリカ上院議員だったゲイロード・ネルソンは「環境の日が必要」と発言し、環境問題に関して学び・討論する機会を設けようという活動を始めました。1970年(昭和45年)4月22日に初のアースデーを開催すべく、事務局長として尽力しました。この最初のアースデーは、ロコミだけで全米の学生・若者中心に広がっています。

国際マザーアースデーは「アースデイ・ネットワーク」という国際事務局によって、190カ国を超えるほぼすべての国で行われています。

3月21日『アースデー(ユネスコ版)』

- 1969年(昭和44年)、アメリカの平和環境運動家のジョン・マコーネルがサンフランシスコで開催されたユネスコの環境に関する大会で(北半球の)春分の日を「アースデー」にする事を提起しました。
- 1970年(昭和45年)3月21日、サンフランシスコ市でアースデーが宣言されました。
- その後、ジョン・マコーネルは「地球の旗」を作って国連へ提案し、国連も支持したことで現在に至っています。

(アースデーという概念の提唱は、ゲイロード・ネルソンよりもジョン・マコーネルの方が先)

毎年、春分の日には国連本部にある「日本の平和の鐘」が鳴らされています。  
\*アースデーを春分の日にした理由は、ジョン・マコーネルが祈りで導きを求めた際に受けた啓示に由来します。

アースデーは環境だけでなく、『平和』や『人権』などにも幅広く関心を示すニュアンスがあり、裾野の広い記念日になっています。また、母のおかげで私たちは生まれたように、地球がないと私たちは生まれていません。この機に地球に感謝し、『今がある』ことを忘れないようにしましょう。

## 「日本の平和の鐘」に込められた願い...

国連本部には、「日本の平和の鐘」という梵鐘があります。この鐘は1954年（昭和29年）6月、当時まだ国連に加盟が許されていなかった日本から、中川千代治さんが制作し、日本国際連合協会を通してニューヨーク国連本部に寄贈されたものです。日本では「国連平和の鐘」とも呼ばれ、直径60cm（センチメートル）、高さ1m（メートル）、重さ116kg（キログラム）あります。鐘の正面には『**杏界絶対平和萬歳**』（世界絶対平和万歳）と铸込まれ、撞木の当たる所は平和を意味する月桂樹で囲まれた太陽と月が描かれています。中川千代治さんが「主義主張、宗教、人種、国の違いを越え、国連代表者やローマ法王ピオ12世をはじめ、世界各国の人々からコインや金貨を世界各地、自ら回り集めて平和を願う人々の心として一つに溶かして、3年をかけて香川県高松市の多田鑄造所で国連本部に贈る鐘を造られました。そして「その鐘を平和の為に鳴らしてもらいたい」と中川千代治さんは訴えました。『**杏界絶対平和萬歳**』（世界絶対平和万歳）とは、「世界が絶対に永遠に平和であります様に」という意味で、贈呈者の中川千代治さんの強い願いです。この「日本の平和の鐘」は、国連に於ける平和の象徴として毎年、春分の日と9月21日の国際平和デーに合わせて、国連で鳴らされて平和を祈念にした鐘打式が行われています。また、1970年（昭和45年）の大阪万博（日本万国博覧会）開催時は、ニューヨークから16年ぶりに里帰りし国連館に展示されたようです。国連に日本の平和の鐘を寄贈した中川千代治さんは、その後各国のコインを集めて溶かし造って、自ら鐘を携えて訪問し平和を訴えて鐘を撞いて頂き「杏界絶対平和萬歳」（世界絶対平和万歳）と刻んだレプリカを各国に贈られました。確認出来ているだけで、その数二百八十八個で亡くなるまで続けていたそうです。

「日本の平和の鐘」について  
詳しく知りたい方は  
QRコードを読み込んで下さい



## 「トルコとシリアで大地震」



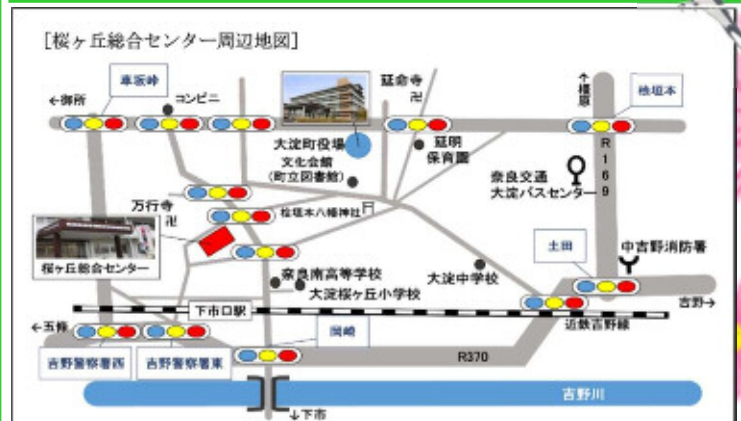
2月6日にトルコ南部とシリア北部の国境地域で大地震が発生しました。この大地震でトルコとシリアの両国あわせて4万3000人以上（2月18日現在）が亡くなられ、現地では懸命な捜索や救助活動が続けられています。トルコは軍事侵攻が続いているウクライナとロシアの近くで、黒海を挟むかたちで向かい合っています。軍事侵攻も1年を迎え死傷者も十万人以上にも上ります。また、大勢の市民が国外へ避難しています。このトルコは親日国で日本と友好関係にあります。1890年（明治23年）に和歌山県串本町の大島樫野崎沖合で起こったオスマン・トルコ帝国の使節団座乗艦エルトゥールル号の遭難事故があり、当時の大島島民が献身的に救助したことがきっかけです。串本町には、犠牲者を弔うために建てられた慰霊碑や、トルコ記念館もあり事件の遺品や写真などが展示されています。私も以前トルコ記念館に行ったことがあります。また、トルコは12年前に起こった東日本大震災の時に、心温まる支援を行ってくれていたようです。

「困った時はお互い様」と言うように、国籍や人種に関係なく、地球に住む**家族**だと思い助け合う事の大切さを忘れてはいけないと思います。

## 【防火避難訓練】を実施

2月8日（水）に防火避難訓練を行いました。今回は大淀町ボランティア連絡協議会の団体様にも参加して頂きました。この防火避難訓練を通して感じたことは、日頃からの訓練や教育、そして備えが大切だということです。今年の1月17日で28年が経った阪神淡路大震災。この震災を機に兵庫県では、阪神淡路大震災の起こった1月17日を「ひょうご安全の日」ときめて、防災訓練を忘れずに安全で安心できる社会をつくるために取り組んでいます。また、3月11日で12年が経つ東日本大震災。この震災の起こった釜石市の小中学校では、2004年からの防災教育に取り組んでいて、この防災教育によって多くの児童や住民の命を救い、『釜石の奇跡』と呼ばれています。この様に、日々の積み重ねが実を結びます。

ご協力頂いた皆様、  
ありがとうございました。



次回、夏号  
(2023年7月頃発信予定)